

# 石狩地域リハビリテーション推進会議

## 目 標

住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを医療・保健・福祉関係者及び住民の総意でつくる

地区懇談会（江別・石狩・千歳・恵庭・北広島）は地域特性に合わせた工夫をしながら戦略的にまちづくりを推進し、多くの住民、関係機関等に本活動の理解と参加を求めていく

補助金終了後の組織の目的・ありかたを検討し、第2ステップとしての事業が展開できることを目指す

## 平成 22 年度の活動

- ・地域懇談会におけるネットワーク構築事業・・・懇談会の組織化、地域での研修会開催、民生委員との懇談会など
- ・研修会・・・2月26日「まちづくりにかかわる～わたしたちがつながることとは～」  
5年間の地域懇談会における活動のまとめと補助金が終了した南渡島の活動報告をいただく
- ・運営委員会・・・4回開催 主に補助金終了後の組織について協議
- ・理事会、総会・・・3月2日（水）同時開催
- ・講師バンク・・・2件実績

## 5年間の成果

- ・圏域を5地域に分け、地域懇談会を立ち上げて活動を続けてきた
- ・兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター西播磨病院逢坂悟郎先生のご指導の下、5地域における課題と達成目標を立てることができ、それに基づいて「町づくり」活動が継続できた
- ・地域における関係職種のネットワーク化が進んだ
- ・地域懇談会が「会」として位置づけられた（組織化された）地域ができた（千歳地域懇談会、恵庭地域懇談会など）
- ・既存の会議を活用したり、地域包括支援センターとの連動をはかる地域が増えてきた。また地域住民や医師会を巻き込んだ活動が増えてきた（江別地域懇談会、石狩地域懇談会、北広島地域懇談会など）
- ・講師バンクの活用により関連職種の資質向上に協力することができた

## 現在の課題

- ・地域懇談会は活発になっているが、圏域全体としての課題・目的が明確ではないこと、広域支援センターの役割が不明確なことなどが、次年度以降に検討が必要な課題と考えている。
- ・2011年度からは地域懇談会が中心になる組織体制に変更を予定。圏域としてのコーディネーターの役割が重要となる

## トピックス

・昨年度の全体研修会、各地域懇談会の研修で講師としてお招きしている白石脳神経外科病院の高橋明先生から「実際に連携構築に向けてより活動を高めませんか？」と活動へ協力いただけるお話があった。

## 他圏域への質問

・石狩圏域では保健所のサポート力が強く活発に活動が展開できた5年間となった。民間病院が事務局として単体で動いていくには限界があると思われる。補助金が切れたあと、保健所の役割が変化しないように、道の事業として継続した活動が期待できるのかどうか、北海道としての見解が聞きたい。